

奈良県新総合計画

本県における総合開発計画は、戦後、農業用水の確保を主とした十津川・紀の川（吉野川）総合開発計画に始まり、その実施途上、国土総合開発法による特定地域として吉野熊野が指定され、熊野川（現新宮川）水系の発電と森林資源開発を主とした吉野熊野特定地域総合開発計画が策定されました。これにより昭和31年度を初年度とし、電源開発、林産資源開発、農産資源開発、国土保全事業、交通条件整備事業等が実施されてきました。

昭和38年には、奈良県新総合開発計画を策定し、大都市近郊としての機能を受け持ち、工業開発を主軸とした発展を期待し、その時代に即応してきました。

その後、経済の高度成長がもたらしたひずみの是正を図るため、昭和43年に昭和50年を目標年次とする第2次奈良県新総合開発計画を策定し、土地利用計画の策定とその方向づけ、公害防止条例の制定と施行、水需給の長期見通しとその対応策をはじめ、自然環境保全条例の制定施行等、緑地の保全、県営上・下水道の着工等に取り組むとともに産業基盤の整備、社会福祉事業等それぞれの事業を実施してきました。

昭和48年には、人間生活優先、環境重視の対策をさらに充実強化すること等を柱に、目標年次を昭和60年とする県長期基本計画（第3次）を策定し、古都保存特別地区の公有化、大気汚染測定局の整備等の環境の保全、大和川上流流域下水道、大湖池公園等都市公園の整備等、生活・産業基盤の整備、高等学校の新設等教育環境の整備及び県立奈良病院の開設等医療の確保等、各般にわた

る施策を積極的に推進してきました。

その後、さらに自然環境の保全と良好な移住環境の確保、公害の防止等に力をそそぐことを主眼として、昭和51年度には、長期的な展望に立った将来の適正人口の検討を行いました。その結果に基づき、さきに策定した第3次計画の目標人口169万人を143万人に変更しました。

さらに、昭和52年度には、適正将来人口の新たな設定に伴い、第3次計画の基本的方向は堅持しながら修正を行い、昭和53年に県長期基本計画（第3次）を策定しました。

その後、21世紀を展望しながら、美しい自然環境のもとで、健康で豊かな家庭生活を築きつつ平和で楽しい社会生活を共にし、世界各国とも直結した奈良県づくりの指針となる計画を策定するため、昭和59年に経済の繁栄をめざした「県長期基本構想」を策定しました。

さらに、その後の社会経済情勢の変化・進展や構想・計画段階であった事業の具体化も進んできたため、県長期基本構想の基本的な方向は堅持しつつも新たな施策を展開していくため「県長期基本構想（修正）」を策定しました。

さらに、社会の新たな潮流や本県の実態・課題を踏まえ、新しい奈良県づくりの指針となる「県新総合計画」を策定しました。

奈良県新総合計画の概要（平成7年3月策定）

＜計画策定の趣旨＞

- ・時代の動きを的確にとらえ、国内外に注目されるような、存在感のある地域としての発展をめざし、時代を先取りした施策を進めるため、新たな総合計画を策定

＜計画の役割＞

- ・県の最上位計画として、県の目指すべき目標や施策の基本的方向を明らかにする県政運営の基本方針
- ・県民や企業の協力、参加や市町村の県との一体的な施策推進を期待
- ・国や関係府県に対して、計画実現に向けて支援や協力を要請

＜目標年次＞

- ・21世紀初頭を展望しつつ、平成17年度（2005年度）を目標年次とする。

基本構想編

(1) 将来の奈良県づくりに向けた課題

＜社会の新たな潮流＞

- 人間性への回帰、自然志向の高まり
- 少子・高齢化

- 先端技術化・高度情報化の急速な進展
- 経済のソフト化・サービス化
- 新地方の時代
- 地球社会との共存

＜本県の特性と課題＞

- 奈良県盆地とその周辺地域への人口や諸機能の集中
- 人口減少、高齢化が進む山間地域の活力維持
- 交通基盤、水資源、下水道など生活基盤整備の充実
- 県内における関西圏の新たな中枢拠点の形成
- 商業、業務機能の京阪神大都市圏への依存
- 歴史的・文化的資源や豊かな自然環境の積極的な活用
- 関西圏、全国主要都市とのモビリティの向上
- 農林業、中小企業をはじめとした産業の高度化と新たな産業の展開

(2) 奈良県づくりの基本理念及び基本目標

21世紀における新しい奈良県を創造するにあたって、人間性への回帰や自然志向の高まりといった社会の新たな潮流を踏まえ、「遊」の考え方に沿って次の基本理念及び基本目標を設定します。

〈基本理念〉

めまぐるしく変化する時代の中で、文化、歴史、自然といった本県の優れた資産を積極的に生かし、住む人、訪れる人が、やすらぎや憩いを感じ、多彩な交流を通して充実した時を過ごすことができる奈良県となることが求められています。

このことから、本計画を貫く基本理念を次のとおり設定します。

- 心の豊かさやゆとり、生きがいを感じられる
- 多様な選択が得られる、個性を大切にする
- 人と人のふれあい、コミュニケーションを大事にする

〈基本目標〉

世界に光る奈良県づくり

本県の優れた特性を最大限に生かし、新しい時代にふさわしい個性と魅力に満ち、内外から注目されるような、存在感のある地域となることをめざしています。

(3) 奈良県の将来像

基本目標である「世界に光る奈良県づくり」に沿って、21世紀初頭の(2020年～2030年)に築き上げたいと考えている奈良県の将来像を描きます。

〔個性と特性を生かして世界へ飛躍している奈良県〕

- 本県の各地域がもつ恵まれた生活空間は、個性と魅力ある地域づくりを通して、一層価値あるものに高められ、国内外から注目される話題性のある地域となっています。
- 新たな文化創造が進む国際的なふれあいと交流の拠点となっています。

〔安心と安らぎのある生活が充実している奈良県〕

- すべての人びとが安全で安心して暮らせるまちづくりが実現し、高齢者や障害者の自立と社会参加が進んでいます。
- 県民は生涯にわたって健康で安心した生活を営むとともに、環境にやさしい生活や経済活動を展開しています。

〔利便性と快適性のある生活舞台が

形成されている奈良県〕

- 交通、情報・通信ネットワークが高度に整備され日常生活に便利な機能やさまざまな高次な機能が県内各地域をカバーしています。
- 農林業や地場産業は生産性を高め、「生活文化提案型産業」など新たな産業が成長しています。

(4) 主要プロジェクト

将来像の実現に向けて、効果的、重点的にプロジェクトを推進します。

[個性と特性を生かした世界への飛躍]

①歴史街道構想を活かした奈良県づくり

- 歴史街道の形成
- 歴史体験の仕掛づくり
- 歴史文化を生かした地域づくり

②関西文化学術研究都市の建設

- 学研都市の中核的地区（高山地区）の形成
- 日本の新しい文化拠点（平城京跡地区）の形成
- 学研都市の先導的複合都市拠点（平城・相楽地区）の形成
- 次代への対応（北田原地区）
- 広域的な交通施設、情報通信基盤整備

③21世紀に飛躍する「情報発信基地・奈良」づくり

- 新たな歴史の扉を開く「平城遷都1300年」への展開
- 総合的な情報センター — 新県立図書館 — の整備
- （仮称）万葉ミュージアム構想の推進
- 観光・コンベンションに関する情報の基地づくり

[安心と安らぎのある生活のしくみづくり]

①安心とやすらぎのある生活環境づくり

- 保健、医療、福祉サービスの充実
- 住みよい福祉のまちづくりの推進
- 「県営福祉パーク」の整備
- 地域ケアの総合的展開

②だれもがいきいきと暮らし過ごせる地域社会の形成

- 高齢者の生きがいと活躍の場の創造
- 健康づくりの推進
- ボランティア活動の推進
- 安心子育ての支援
- 男女共同参画社会の形成

③明日を担う人材育成

- 豊かな個性と主体性を備えた人材の育成
- 21世紀の奈良県を担う青少年の育成
- 地域の活力と個性を担う人材育成
- 長寿社会を支える人材育成

[利便性と快適性のある生活舞台づくり]

①交流・連携の推進

- 広域的な幹線道路網の整備
- 近畿圏の新たな玄関口の形成

- 太平洋新国土軸の形成
- 半日交通圏道路網の形成
- 公共交通網の整備
- 情報通信基盤の整備

②先導拠点の形成

- 中和地方拠点都市地域の形成
- 大和高原における拠点の形成
- 南和の拠点となる都市圏の形成
- 森林文化ゾーンの形成

③地域に活力とうるおいをもたらす産業の振興

- ビジターズインダストリーの推進
- 生活文化提案型産業の振興
- 農林業の新しい展開
- 関西文化学術研究都市の波及効果の活用

④地域アメニティの形成

- 奈良らしい景観の形成
- いこいとやすらぎの空間づくり
- 環境にやさしい社会づくり

⑤生活を支える基盤づくり

- 水資源の安定的確保と水道の整備
- 下水道等の整備

地域別計画編 ー各地域の発展方向ー

[大和平野地域]

- 近畿圏のセンターゾーンの一翼としての発展
- 魅力ある生活環境を有した生活文化ゾーンの形成
- 国際的な広域観光ネットワークの形成
- 高度な産業集積の促進
- 心豊かでゆとりのある地域の形成
- 特性を生かした地域の発展

<北 部>

- ・リニア中央新幹線奈良駅を核とした関西エリアをカバーする高次都市機能の整備
- ・関西文化学術研究都市の整備による新しい都市圏の創造

<中南部>

- ・中和拠点都市地域の形成による本県の発展を先導するもう一つの都市圏域の整備
- ・鉄道駅周辺の再整備等による商業・業務機能、文化、居住等の機能の強化

<東 部>

- ・研究開発機能、新産業育成機能の展開、保養レクリエーション機能の形成

・働き、憩う場と一体となった郊外居住機能の整備

<西部>

・居住機能に加え、文化、商業など様々な機能をもった
利便性が高く、暮らしやすい地域の形成

[大和高原地域]

- 交流・連携の推進
- 観光・保養・レクリエーションゾーンの形成
- 新たな産業ゾーンの形成
- 魅力ある定住環境の形成
- 特性を生かした地域の発展

<北部>

・新たな産業機能の形成
・観光・保養・レクリエーション機能の形成
・良好な移住機能を備えた地域の形成

<南部>

・商業・サービス業の集積など都市機能の整備
・居住機能と産業機能の一体的な整備
・観光・保養・レクリエーションゾーンの形成

[五條・吉野地域]

- 交流・連携の推進
- 観光・保養・レクリエーションゾーンの形成
- 豊かな自然を生かした産業振興
- 安心して生活できる居住環境の形成
- 特性を生かした地域の発展

<北部>

・生産・物流機能、商業機能、移住機能が集積した南和
地域の発展をけん引する中核的都市圏の形成

<南部>

・都市との交流を通じた地域の活性化
・林業技術の交流等を通じた国際貢献を果たせる地域と
しての発展

分野別基本計画 一 施策展開の方針と体系一

基本目標である「世界に光る奈良県づくり」や21世紀
初頭の奈良県の将来像を実現するため、次の7つの分野
別施策方針によって、各分野の諸施策を総合的・体系的
に推進します。

1. 21世紀に羽ばたく奈良県の基盤づくり

- 交通・情報通信ネットワークの整備

●水資源・エネルギー対策

●生活基盤の整備

●都市・農山村の整備

2. 生きがいと誇りの持てる長寿社会の実現

●安心して、いきいきと暮らせる地域社会の形成

●社会福祉の充実

●保健・医療、健康づくりの充実

3. 地域の特色を生かした特色ある産業振興

●新しい産業機能の充実

●農林業の振興

●工業、商業、サービス業の振興

●労働環境の整備

4. 「国際文化観光・平和県」への着実な進展

●国際化の推進

●文化・学術研究の振興

●観光の振興

●歴史街道構想を活かした奈良県づくり

●人権政策の推進

5. 快適で明るい社会の実現

●快適な生活環境の形成

●にぎわいと活力ある地域づくり

●生活の安全確保

6. 視野の広い、明るく、たくましい人づくり

●生涯学習社会の構築

●長寿社会を支える人材の養成、確保

●青少年の育成

●地域活動の推進

●新しいライフスタイルへの対応

●男女共同参画型社会の実現

7. 均衡ある県勢の発展と総合的な地域づくり

●均衡ある県政の推進

●広域連携による総合行政の推進

計画推進のために

「分かりやすい県政」「切れ目のない県政」、また「未来を見つめる県政」を基本姿勢とし、計画の実現に向けて積極的に取組を進めます。

●県民総参画による計画の推進

●地方分権の推進

●市町村、国、近隣府県との連携推進

●組織・機構等の整備

●財政の効率的運営

●計画の進行管理

奈良県新総合計画後期実施計画の概要

1. 後期実施計画策定の経緯

- ・「なら21世紀づくり県民アンケート」の実施
調査対象：県内に在住する20歳以上の男女 5,000人
(無作為抽出)
実施期間：平成11年12月15日～12年3月30日
- ・「知事への手紙」による意見募集
募集期間：平成12年1月1日～2月29日 応募者：522名
- ・「世界に光る奈良県づくり懇話会」の開催（4回）
- ・知事・市町村長懇談会の開催

2. 後期実施計画の特徴

- ①物の豊かさより、心の豊かさを重視する時代に向け、子育て、健康、生きがい、教育、暮らしの安全・安心など、県民共通の重要課題を重視したこと
- ②平成7年の奈良県新総合計画策定後における急速に進展・変化する社会経済情勢に、先見性をもつて的確に対応する計画とするため、後期5か年の施策展開の方向として、先導的・重点的に取り組む「リーディングプラン～主導的なプラン～」を、県民のニーズなどを踏まえ提示したこと
- ③県民に分かりやすく、開かれた行政運営を展開するとともに、効率的・効果的な行政「経営」の視点を重視し、「行政運営の革新」編を新たに設定したこと

- ④県民に分かりやすく、また、より効率的・効果的に事業を推進するため、新たに「施策目標値」及び「事業目標値」を設定したこと

後期実施計画の骨子

1. 後期実施計画の性格

今後5か年の県の総合的・効率的な行政運営を推進するための中期的な指針

2. 後期実施計画の期間

平成13～17年度（新総合計画の計画期間の後期5か年）

3. 後期実施計画の構成

- 第1編「後期5か年の展望と基本方向」編
- 第2編「リーディングプラン～主導的なプラン～」編
- 第3編「分野別実施計画」編
- 第4編「行政運営の革新」編 など

4. 後期5か年の展望と基本方向

(1)後期実施計画策定上の課題

新総合計画（平成7年3月）策定後の急速に進展する社会経済情勢などに、先見性をもつて的確に対応するために課題を整理

①社会の新たな潮流の変化

- ・人間性への回帰・自然志向の高まり
- ・少子・高齢社会の進展
- ・教育への関心の高まり
- ・先端技術化、高度情報化の急速な進展
- ・経済・雇用構造の変革
- ・地球社会との共存
- ・安全・安心へのニーズの高まり
- ・地方分権時代の到来

②本県の特性と課題

- ・世界に誇る歴史・文化遺産と豊かな自然環境の保全・活用
- ・個性と魅力ある地域づくりの推進
- ・県勢の発展を牽引する交通体系の整備
- ・変革に対応した産業の振興

(2)後期実施計画策定の基本方向

- ①「時の課題」に迅速かつ柔軟に先見性をもって対応するとともに、「地域の課題」には的確かつ着実に対応
- ②新総合計画の掲げる3つの将来像（福祉・快適・交流）実現に向けた政策の視点、及び新たな時代に対応する行財政システムの構築に向けた行政革新の視点
- ③施策の目標を分かりやすく示す「施策目標値」の設定

5. リーディングプラン～主導的なプラン～

時代潮流の変化や、本県の特性と課題に的確に対応するため、今後5か年において先導的・重点的に取り組むリーディングプランを設定し、その施策展開の考え方、方向性を提示

○福祉の分野

(1)「なら」悠々子育てプラン

子育てを現代の重要課題と捉え、保育、雇用、保健医療、教育、住環境などの様々な分野での総合的な少子化対策の推進

(2)健康いきいき長寿社会の推進

県民が健やかで心豊かに生活ができる社会、高齢者や障害者がいきいきと生きがいをもって社会参加し、安心して暮らせる社会を実現する施策を推進

(3)教育改革の推進

いじめや不登校などの教育課題に対応し、豊かな人間性と創造性を持った21世紀を担う子どもを育てるための施策を展開

(4)協働する社会環境の形成

人権が尊重され、男女が共に参画する社会づくりや、ボランティア活動を推進するとともに、コミュニティを生かした地域づくりを促進する施策を推進

(5)暮らしに信頼を築く安全・安心プラン

食品の安全性の確保や消費生活を営むための支援に努めるとともに、災害に強い県土づくりと災害発生時の安全・安心を確保

○快適の分野

- (6)明日の奈良を築く交通ネットワークの形成
多彩な交流・連携を支え、地域の活性化や経済の振興を図るため、「なら・半日交通圏道路網構想」の実現など、交通ネットワークの整備を促進
- (7)新たな芽を伸ばす産業の育成
新しい価値に着目し、IT、環境などの新たな時代ニーズに対応して、本県産業の発展の芽を育成
- (8)ふるさと「なら」ルネッサンスの展開
美しいならの景観づくりを進め、歴史・文化への回帰を深めるとともに、新たにふるさとを感じられる文化の創造を進めることにより、新しいふるさと「なら」を再構築
- (9)ごみゼロ社会への環境づくり

地域から地球的規模までの様々な環境問題が深刻化するなか、資源循環型社会の実現に向けた総合的な施策を展開

- (10)清らかで豊かな水と共生する生活基盤づくり
水資源の開発、河川・地下水の水量の確保や水質の浄化、親水空間の整備など豊かで清らかな水の恵みを享受できる水循環社会を創造

○交流の分野

- (11)歴史文化首都「なら」の創生
歴史と伝統に根付いた日本文化を広める主導的な役割を担い、多彩な交流活動を通して国内外に貢献するとともに、多くの人々が「関西の憩いのオアシス」として感じ、訪れ、集う世界レベルの交流拠点となっている奈良県の創生

(12)「IT戦略」推進プラン

情報通信技術を積極的に活用し、県民サービスの向上、世界との交流、産業の振興など、IT革命の恩恵を享受できる施策を展開

(13)中山間地域の新たな魅力の創造

中山間地域の活力低下が懸念されるなか、豊かな自然や歴史文化資源の活用、地域間交流を進め、地域の新たな魅力を創造

○経営の分野

(14)開かれた行政「経営」の推進

地方分権の進展や厳しい財政状況を踏まえ、「開かれた県政運営」の推進や行政「執行」から行政「経営」への意識転換などを進め、新しい行財政システムを構築

6. 分野別実施計画

- (1)21世紀に羽ばたく奈良県の基盤づくり
(2)生きがいと誇りの持てる長寿社会の実現
(3)地域の特性を生かした特色ある産業振興
(4)「国際文化観光・平和県」への着実な進展
(5)快適で明るい社会の実現
(6)視野の広い、明るく、たくましい人づくり
(7)均衡ある県勢の発展と総合的な地域づくり
(計画に掲げる事業については省略)

7. 行政運営の革新

○新たな時代に対応する行財政システムの構築

- (1) 地方分権の推進と市町村との連携の充実
- (2) 行財政改革の更なる推進
- (3) 行政評価システムの構築
- (4) 「県民参加型」の開かれた県政運営

「6. 分野別実施計画」の7つの分野及び「7. 行政運営の革新」に沿って、「27の大施策」（例－交通ネットワークの整備）、「78の小施策」（例－道路の整備）、「213の施策方向」（例－広域的な幹線道路の整備）ごとに、約900の事業を掲載

8. 施策指標・目標値の設定

県政各分野の施策のねらいや、事業の進展を行政目標として出来るだけ数値化し、県民に分かりやすく示すため、「施策指標」（139項目）、「事業指標」（202項目－施策指標と一部重複を含む）を新たに導入し、その進捗状況を的確に把握するとともに、適切な進行管理を行い、分析・評価を加えることにより、効率的・効果的な事業推進を図る。

《施策指標・目標値》

例 主要な地点間の所要時間

奈良市～橋本市	115分(H10)→70分(H17)
橿原市～関西国際空港	120分(H10)→55分(H17)
地域子育て支援センター数	10箇所(H11)→25箇所(H17)
県審議会等への女性の登用率	19.8%(H11)→30%(H17)

《事業指標・目標値》

例 国道（補助国道）の改良率	61.1%(H10)→65%(H17)
森林ボランティア数	1,830人(H11)→2,400人(H17)
小・中・高のパソコン教室における1人一台での学習環境の達成率	
小学校	41.9%(H11)→100%(H17)
中学校	76.6%(H11)→100%(H17)
高等学校	53.5%(H11)→100%(H17)

(参考) 人口、経済の将来見通し

年令3区分別人口構成

(単位：千人)

		1995	2005	2010 (参考)
総人口		1,431	1,470~1,500	1,470~1,540
実 数	0~14	233	210~220	210~220
	15~64	1,000	980~1,000	940~990
	65歳以上	198	280	320~330
構 成	0~14	16%	14%~15%	14%
	15~64	70%	66%	64%
	65歳以上	14%	19%	21%~22%
全構 成 国比	0~14	16%	14%	14%
	15~64	70%	66%	64%
	65歳以上	14%	20%	22%

※ 全国の推計値は、平成9年1月厚生労働省人口問題研究所推計

産業別生産額

(単位：億円)

項 目	1995	2005	2010
総生産額	36,041	38,610~ 42,560	40,860~ 48,670
第1次産業	601	510~ 540	450~ 500
第2次産業	12,316	13,050~ 14,040	13,520~ 15,310
第3次産業	23,124	25,050~ 27,980	26,890~ 32,860

項 目	1990~1995	1995~2005	2005~2010
年平均伸び率	1.6%	0.7~1.7%	1.1~2.7%

1990年価格表示

県民の歌

萩原 四朗 作詞
福島 正二 作編曲

一、吉野のさくら 畝傍山
歴史を染めて 陽がのぼる
大和の国に 住む欲びを
肩よせて誇る 奈良県民――
おお！ 頼母し

三、近畿の要め 文化の府
花咲く明日に 夢かけて
大和の国に 溢れる幸を
たからかに謳う 奈良県民――
おお！ 美し

二、山路を拓き 野を起し
豊かに実る 秋を呼ぶ
大和の国は いま健やかに
眉あげて進む 奈良県民――
おお！ 逞し

県民音頭

木村 龍平 作詞
長津 義司 作編曲

一、ハアー一つ二つ花びら重ね
アヨイヨイヨイ
夢を重ねた八重桜
アヨイシヨ
花の上から大仏さまが
話しかけます呼んでます ソレ
ホンニヨシヨシあおによし
みんないっしょに
ソーレヨイヨイ来て踊れ

三、ハアー三つ四つの都の跡を
アヨイヨイヨイ
今にのこした奈良平野
アヨイシヨ
紅葉狩りした大宮人の
烏帽子姿が目につかぶ ソレ
ホンニヨシヨシあおによし
みんないっしょに
ソーレヨイヨイ来て踊れ

二、ハアー二つ三つときれいな峯が
アヨイヨイヨイ
顔をそろえた雲の上
アヨイシヨ
奥の山やまみどりに晴れて
すそは吉野の花模様 ソレ
ホンニヨシヨシあおによし
みんないっしょに
ソーレヨイヨイ来て踊れ

四、ハアー四つ五つと五重の塔の
アヨイヨイヨイ
屋根はかがやく空たかく
アヨイシヨ
大和よいとこ世界に誇る
古い文化の宝庫 ソレ
ホンニヨシヨシあおによし
みんないっしょに
ソーレヨイヨイ来て踊れ

奈良県勢要覧 2002 (平成14年)

発行日：平成14年3月31日

編集：奈良県統計課

発行：奈良県統計課

〒630-8501 奈良市登大路町30
TEL (0742) 22-1101
(内線 2615・2616)

印刷：株式会社 アイプリコム

〒636-0246 磯城郡田原本町千代360-1
TEL (07443) 4-3030
